令和３年度　特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

人生１００年時代の女子キャリア教育

学校法人日本女子大学
日本女子大学

～日本女子大学～

東京都文京区目白台、東京の山手の中でも閑静な文教地区として知られる地の一角で、日本女子大学は設立当初から教育活動を行ってきました。

創立者である成瀬仁蔵氏が、明治24（１９０１）年に創設した「日本女子大学校」を起源とし「女子を人として教育すること、女子を婦女として教育すること、女子を国民として教育すること」という建学の精神に基づき、女性が一人の人間として一生をかけて自己の向上と発展を目指す「生涯教育」の理念を継承しながら、長年にわたり多方面で活躍する女性を輩出し続け、令和３年に創立120周年を迎えました。私立女子大学の中で唯一の理学部を設置するほか、大学院や通信教育部、生涯学習センター等を有し、年齢や環境を問わず学びを求める全ての女子に教育環境を提供できる女子総合大学です。

【在学生のキャリア教育】

同大学では、「生涯教育」を教育活動の柱としており、女性一人一人が持つ潜在的な可能性、個性、特徴を伸ばし、社会で実力を発揮できる実践力を育てています。大学生が一年次から履修できる「ＪＷＵキャリア科目」（15科目）はそのひとつで、学生が在学中に自分の特性に気づき、自己実現のための計画をたてられるよう設計された授業科目です。科目は大きく３つの柱、講義型科目、演習型科目、実践型科目で構成されており、多くの学生が履修しています。

講義型科目は、人が生きていくうえで出会う法律問題の基礎知識を学べる「ライフステージと法」、我が国の現代の女性をめぐる社会情勢について学ぶ「日本の女性史」、また各界で活躍する女性との対話を通して職業観を養うことを目的とする「女性と職業」など、実社会で役立つ法律や社会情勢等を学べる科目群です。演習型科目は、社会の各分野で活躍する職業人との対話を通して主体的に職業観を養い、意思伝達力、表現力、柔軟な思考力、社会への発信力を身につけられるような課題解決型のワークショップ形式の科目です。これらの座学、演習に、インターンシップによる実践を経て力を養った学生が、卒業後にキャリアを好スタートできるよう、設計されています。

これらの授業の履修をとおして、学生は、キャリアについて早い時期から意識することになり、女性の生き方、働き方、ひいては自分の特性について考え、社会で自己実現をするために必要な幅広い知識、思考力、実践力を身に着けていきます。

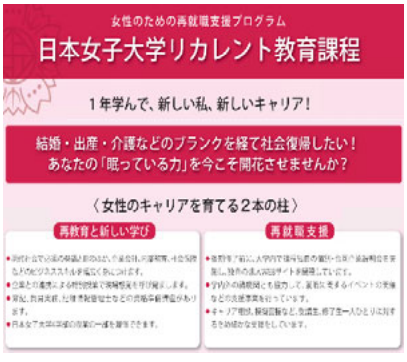
日本女子大学校舎目白キャンパス

【リカレント教育課程①　概要】

同大学では４年制大学、大学院生以外にも、結婚・育児・進路変更等で離職した女性や、就労中でスキルアップ、ブラッシュアップを目指す女性に対してのキャリア教育（リカレント教育）にも取り組んでいます。離職した女性には「女性のための再就職支援プログラム」を、就労中の女性に対しては「働く女性のためのライフロングキャリアコース」を提供しています。

《女性のための再就職支援プログラム》

４年制大学を卒業した就業経験のある女性を対象とし、同大学の卒業生以外も数多く受け入れています。１年間のコースで、高い技能の知識、働く自信と責任感を養うことを目的としており、大学の学部科目より実践的かつビジネスに特化したプログラムです。このコースの独自の科目群を履修することで受講生は、現代社会に必須の英語、ＩＴ、企業会計、内部監査、社会保険等のビジネススキルを、実務家講師から学ぶことができます。また、リカレント教育課程オリジナルのインターンシップや企業説明会等もあり、再就職支援までをプログラムに含めているのが特徴の、履修証明プログラムです。



女性のための再就職支援プログラム

《働く女性のためのライフロングキャリアコース》

前述のプログラムが離職中の女性を対象とするのに対し、主に就労中の女性が働きながら学べるコースとして令和３年度に新設しました。リカレント教育課程の受講生の層が「職業ブランクのある人」から「非正規を含む仕事を持つ人」に変わってきたことから、働く女性がライフロングキャリアデザイン

を構築すると共に、リーダーシップ能力を育み、管理職・経営者として活躍することを後押しする目的で作られた履修証明プログラムです。

【リカレント教育課程②　導入の経緯・特徴】

同大学のリカレント教育課程は、平成19（２００７）年に文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育事業」に選定された「リカレント教育・再就職システム」として開講しました。開始の前年に同大学ではソーントン不破直子先生を中心に「結婚出産で退職を余儀なくされたが、再就職が難しい」と声を上げた就業を希望する卒業生に応えるべく、彼女たちのブランクを取り戻すための再就職講座を計画していました。この計画と文部科学省委託事業が、学びなおしという目的を同じくするものであったことから、同事業への応募を契機として、「リカレント」の名を日本で初めて冠した講座として開講したのがこの課程です。

開講後は、時代に合ったスキルを提供するプログラムとして、カリキュラムの改変・進化を重ねてきました。最新のニーズを把握するために、学生アンケート調査のほか、科目を担当する実務家講師や企業等のステークホルダーとの意見交換を繰り返し、関係者すべての満足度の向上に努めています。現在「再就職支援プログラム」の修了要件は280時間以上と、文部科学省の定める修了要件である60時間以上を大きく上回っていますが、これも関係者が考える、スキル取得に必要な時間の積み重ねの結果です。高いハードルに見えますが、同プログラムの受講生は、希望する学びを経て力を身に着けることを目的としているため280時間以上の単位を取得する受講生も数多く存在します。

修了者の多くが「継続して学び続ける習慣、人生百年時代を生き抜く力も修得できた」とコメントしていることから、修了要件の時間の多さは問題ではなく、時代に即した講座の内容がなにより重要であることがわかります。

日本女子大学リカレント教育課程　沿革

●2007年 9月	文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育事業委託」採択 「リカレント教育・再就職システム」として開講
●2007年12月	改正学校教育法により、社会人にプログラムを提供し、履修証明を授与する課程の設置が認められる
●2008年 4月	大学設置の履修証明プログラムとなる
●2010年 3月	生涯学習センターの一部門として本学独自の運営を開始
●2015年12月	文部科学省が定める「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定
●2016年 1月	厚生労働省「専門実践教育訓練給付金」講座に指定
●2016年 4月	9月入学を廃止し4月入学に一本化
●2016年10~12月	「働き方改革に関する総理との意見交換会」出席
●2017年 6月	内閣府男女共同参画局「平成29年度女性のチャレンジ支援賞」受賞 内閣府男女共同参画局「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」出席
●2017年11月	リカレント教育課程10周年記念シンポジウム開催
●2018年 5月	東京商工会議所と「女性のための新たな学び・再就職に関する覚書」締結
●2018年 8月	文部科学省「平成30年度男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業」を受託
●2019年 7月	文京区と「中小企業人材確保・採用拡大支援事業」連携
●2019年10月	文部科学省「平成31年度持続的な産学共同人材育成システム構築事業」委託事業名「実務家教員COEプロジェクト」に参画
●2019年12月	「女性のためのリカレント教育推進協議会」発足。本学は初代会長・幹事校
●2020年 5月	文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」普及啓発事業に採択
●2021年 1月	令和２年度「東京都女性活躍推進大賞」受賞
●2021年 4月	文部科学省「女性の多様なチャレンジに寄り添う学びと社会参画支援事業」普及啓発事業に採択

特徴の一つである再就職支援は、対象、手法とも、毎年春の新卒大量一括採用を主とする学部生向けの就職支援と大きく異なります。受講生の再就職先の多くは、中小企業のため、毎年度一定の採用枠が見込まれないことから、東京商工会議所、東京労働局の協力のもと、リカレント教育課程に理解を示し、即戦力を随時求める企業を探し、新規再就職先の開拓を継続することで、採用枠の確保に尽力しています。再就職をかなえた修了者や同課程に賛同して修了者を雇用した企業から得られる高い評価は、携わる職員の士気向上にもつながり、関係者全員の満足向上という好循環を生み出しています。

リカレント教育は、決して採算のとれる事業とはいえず、平成19年に文部科学省委託事業に採択された学校の殆どが、委託期間の終了とともに終了しているのが実情です。同大学は「生涯教育」の理念のもと、平成22年度の委託事業期間終了時に「リカレント教育委員会」を立ち上げ、現在も大学独自のプログラムとして継続しています。各学部の教員が持ち回りで同委員会の委員（任期２年）を担当し、受講希望者との面談や、再就職先企業への訪問に同行を委員の職務とすることで、リカレント教育課程が大学の資源を社会へ還元する手法であること、卒業生の支援となっていることを認識してもらえるよう努めています。どの委員も、受講生の熱意に触れ、任期を終える頃にはプログラムの理解者、支援者となっており、これを順番に体験してもうことで、委員会の活性化にも成功しています。

同大学のリカレント教育課程は、開始から十年余りを経て、国や企業等からの評価も得られるようになりました。一例として、働き方改革に関する総理と現場の意見交換会への出席、内閣府男女共同参画局の「女性のチャレンジ支援賞」受賞、文京区や東京労働局、各企業からの支援等が挙げられ、国や企業等から、今後のさらなる発展が望まれています。

【取材を終えて】

同大学のリカレント教育課程には「すべての女性にとって、人生行路の必要な時に立ち寄り、休息し、給油し、糧食を得て次の航海に再出発できる港になりたい」との思いが込められています。その言葉のとおり、取材で伺った全ての取組みが「生涯教育」の理念に基づき、女性のことは女子大が一番よく理解しているという自負のもと、真に女性のことを考えた内容となっていると感じました。リカレント教育に限らず、女性のために在り続ける、その姿勢と教育内容が、共感を得て選ばれる大学となっている所以なのでしょう。

未だに、女性の再就職は難しい状況にありますが、その社会的課題の解決に向けてリカレント教育課程を運営する大学による「女性のためのリカレント教育推進協議会」の初代会長、幹事校になるなど、同大学は歩みを止めることはありません。これからも、全ての女性のために女子教育の先頭を走り続けることが期待されています。

（取材）私学経営情報センター